

閉会の挨拶

富山大学 工学部 副学部長
磯部 正治 氏

本日は午後の長い時間、4名の演者の方々にデータサイエンス時代の工学教育について、いろいろとご講演をいただきました。全ての学生を対象にデータサイエンス教育を行うよう文部科学省の指導が入り、何をどのように教えれば良いのか試行錯誤している過程だと思います。そもそも誰がデータサイエンス教育を必要としているのか？最初の演者であるインテックの青木さんのご紹介にもありましたように、開発レベル、研究者としてのデータサイエンスもあれば、ユーザーとのインタラクションを円滑に進めるためデータサイエンスの概念を理解している人材が必要という要求もあり、どういう学生に、どういうデータサイエンス教育をすれば良いのかという整理が必要だと考えられます。現時点では、誰にどのような中身のデータサイエンスを教えれば良いのかという段階で、皆かなり悩まれているのではないかと思います。

今日、参沢先生や高田先生にAIの歴史についていろいろとご紹介いただき、今は第3次AIブームだと伺いました。確かに今回のブームは結構本格的に動き出していると実感します。その理由には、ビッグデータが非常に手に入りやすくなったことと、それを利用するメカニズムや、いろいろな装置が使えるようになったという技術的な進歩も関係していると思います。その中であって、技術はどんどん変化するので、大学の教員にとっても自分が学んだことは既に過去の話であり、つぎつぎと現れる新しい革新的な技術にどうキャッチアップしていくかという点にも労力を割かなければならず、既に非常に大変な状況になっています。

先日、富山大学で行われた「ものづくりアイデア展」では、学生が、Zoomなどで顔出しするのが嫌なので、AIを応用しアバターを使ってアニメの顔を自分の顔の表情と同期させるソフトを開発していました。そのような技術を既に学生が使いこなしていることに非常に驚きを覚えました。このような状況ですと、最後の金沢工業大学の山本先生がご紹介されたように、新しいことをどんどん取り入れる学生

の能力を生かし、そのモチベーションをさらに上げる仕組みとして、金沢工業大学で実践されている応用面を意識されたカリキュラムについてもご紹介がありました。基礎的な事項ばかり習っても「一体、これは本当に役に立つのだろうか」と考え、学習の途中で挫折してしまうことが多々あります。その点、実社会での応用を見据えた目標が見えていると、「その目標達成に向かって今はこれをしよう」と学習の動機付けになるのではないかと感じました。

今日は半日の講演会でしたが、これからのデータサイエンス時代に向けて工学部で何を教えていくべきかを考えるために、非常に示唆に富んだご講演を頂くことができました。今回ご講演いただきました先生がたに改めて感謝申し上げますとともに、これからも工学教育の発展にご尽力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

以上で閉会の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。